令和３年３月２４日
市民文化スポーツ局

Ⅰ 北九州市生涯学習推進計画
≪“学びと活動の環”推進プラン≫（最終案）
【概要版】

第１章　計画策定にあたって

１．計画策定の趣旨

「北九州市生涯学習推進計画《“学びの環”推進プラン》」策定から５年が経過し、社会環境や「生涯学習社会」に求められる役割にも変化がみられるようになってきました。

そのため、新たに「生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」を策定するものです。

２．計画の位置付け

（１）計画の位置付け

「元気発進！北九州」プラン（市の基本構想・基本計画）の部門別計画の１つに位置付けています。

また、教育基本法第 17 条第２項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

（２）計画期間

令和３年度～令和７年度（５年間）

３．計画の推進

「社会教育委員会議」において、毎年、計画に掲げる事業等の進捗を報告するとともに、社会教育委員の意見を聞きながら、計画的かつ効果的に推進を図ります。

第２章　北九州市の生涯学習を取り巻く現状と課題

１．北九州市の状況

（１）少子高齢化と人口減少の進行
（２）情報化・グローバル化の進展
（３）家族形態の変化・地域コミュニティの希薄化　等

２．生涯学習に関する市民意識の現状（「令和元年度生涯学習に関する市民意識調査結果」より）

（１）「生涯学習」という言葉の認知度の割合は約９割以上
（２）生涯学習に関する情報を「得ていない人」の割合は約４割
（３）「学習活動をした人」の割合は約７割
（４）学習活動を行っていない最も多い理由は「時間がとれない」　等

３．生涯学習推進計画（平成 28 年度～令和 2 年度）の総括

（１）様々な学習機会の提供と参加のきっかけづくりが必要

【具体的な課題】

〇年代に応じた情報提供への対応

〇人生１００年時代を見据えた学習機会

〇社会の中で孤立しがちな人々への学習機会　等

（２）課題を解決できる人材、地域を支える人材の発掘・育成が必要

【具体的な課題】

〇地域活動をリードする人材の発掘・育成

〇学びと活動をつなぐ人材の発掘・育成

（３）地域におけるあらゆる世代や関係機関によるつながりづくりが必要

【具体的な課題】

〇人と人とのつながりによる仲間づくり

〇シビックプライドの醸成

〇家庭・地域・学校の連携

〇子どもが成長していく上でのつながりづくり

第３章　生涯学習のこれからの方向

１．めざす本市の生涯学習社会と目標

【めざす生涯学習社会の姿】

★市民一人一人が、生涯にわたるあらゆる段階や場面において、自分に適した手段・方法を選択し主体的に学習に取り組み、学んだ成果を行動に活かす人が地域社会に多く存在する社会
（循環型生涯学習社会）

★地域が抱えている多様かつ複合的な課題により効果的に対応するため、行政だけではなく自治会、まちづくり協議会等の地域団体、社会教育関係団体、学校、ＮＰＯ、ボランティア、企業などの地域社会のさまざまな組織が、それぞれの強みを活かしながら共に支え合い高め合うネットワークが形成され、地域の活力が高まった社会
（ネットワーク型生涯学習社会）

★地域の様々な市民や団体が継続的に子どもの健やかな成長・発達に関わり、子どもと大人たち全てが共に学び合い、支え合い、高め合う。また、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを進め、これからの時代に必要な力や、生まれ育った地域や本市への愛着や誇りを子どもたちに育む。そうした環境の中で子どもたちが将来の地域の担い手となる社会
（次世代育成型生涯学習社会）

【計画の目標】

市民が学び、つどい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

2.北九州市生涯学習推進計画《”学びと活動の環”推進プラン》の体系

計画の目標

市民が学び、つどい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

基本方針

①人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習社会づくり

②「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会づくり

③多様な主体のネットワークによる生涯学習社会づくり

④子どもの成長への関わりを通して「家庭」や「地域」の力が高まる生涯学習社会づくり

施策の柱

柱1

誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

柱2

「学び」と「活動」による人づくり

柱3

「学び」と「活動」によるつながりづくり

施策の視点

- ■ きっかけづくり
- ■ 人づくり
- ■ つながりづくり
- ■ 地域づくり
- ■ ネットワークづくり
- ■ 多様性への対応
- ■ 支援体制づくり
- ■ 行財政改革

具体的な施策	取り組み
(1)「学び」と「活動」の情報提供の拡充	①「学び」と「活動」の一元的な情報提供 ②多様な媒体による情報提供
(2)気軽に相談ができる体制づくり	①「学び」の相談体制づくり
(3)多様な「学び」の機会の提供	①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実 ≪②－1 乳幼児期の生涯学習≫ ≪②－2 青少年期の生涯学習≫ ≪②－3 成人期の生涯学習≫ ≪②－4 高齢期の生涯学習≫ ≪②－5 多様性(障害のある人・外国人住民等)に応じた生涯学習≫ ③現代的・社会的な課題の解決に向けた学習機会の提供・充実 ≪③－1 人権教育の推進≫ ≪③－2 環境教育の推進≫ ≪③－3 男女共同参画社会の形成の推進≫ ≪③－4 子育て支援の推進≫ ≪③－5 超高齢社会対策の推進≫ ≪③－6 安全・安心対策の推進≫ ④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実
(4)「学び」と「活動」の場づくり	①学んだ成果を活かす仕組み ②生涯学習関連施設の整備
(1)「学び」と「活動」を通した人材の発掘・育成	①地域ボランティアの発掘・育成 ②地域リーダーの発掘・育成
(2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成	①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり	①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り	①シビックプライドの醸成 (地域文化、生涯スポーツ) ≪①－1 文化振興によるシビックプライドの醸成≫ ≪①－2 スポーツの振興によるシビックプライドの醸成≫
(3)学校と家庭・地域がつながる教育力の向上	①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の連携促進 ③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進

３．計画とＳＤＧｓの関係

SDGs において、<u>教育は目標 4 に位置付けられ「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する（短縮標記：質の高い教育をみんなに）」</u>とされています。

しかし、SDGs の目標は、それぞれが独立したものではなく、相互に関係し、時には相反する価値を追求することもあります。そのような中で教育もまた、独立した目標ではなく、むしろ、『教育が全ての SDGs の基礎』であるとともに、『全ての SDGs が教育に期待』しているとも、言われています。

そのため、目標４をベースとし、各柱の具体的な施策・取り組みにあった目標につなげ、本計画の取り組みを推進します。

	具体的な施策・取り組み	関連する主な目標（ゴール）
柱１ 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり	（１）「学び」と「活動」の情報提供の拡充 ①「学び」と「活動」の一元的な情報提供 ②多様な媒体による情報提供	
	（２）気軽に相談ができる体制づくり ①「学び」の相談体制づくり	
	（３）多様な「学び」の機会の提供 ①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実 ③現代的・社会的な課題の解決に向けた学習機会の提供・充実 ④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	
	（４）「学び」と「活動」の場づくり ①学んだ成果を活かす仕組み ②生涯学習関連施設の整備	

	具体的な施策・取り組み	関連する主な目標（ゴール）
柱２「学び」と「活動」による人づくり	（1）「学び」と「活動」を通した人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成 ②地域リーダーの発掘・育成	
	（2）「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成	
柱３「学び」と「活動」によるつながりづくり	（1）「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	
	（2）つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成（地域文化、生涯スポーツ）	
	（3）学校と家庭・地域がつながる教育力の向上 ①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の連携促進 ③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進	

エスディージーズ
SDGs ＝ SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
持続可能な　開　発　目　標

達成すべき具体的な目標として、「１７のゴール」（SDGs）が定められています。

第４章　施策に関する具体的な取り組み（指標）

施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
生涯学習の情報が取得できている人の割合	37.2%	50%
過去１年間に学習活動をした人の割合	56.9%	70%
学習活動に満足している人の割合	88.5%	95%
生涯学習関連施設の利用者数	14,033 千人	前年度以上

施策の柱２　「学び」と「活動」による人づくり

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
ボランティア登録人数	22,858 人	前年度以上
地域活動に参加した人の割合	42.1%	50%
「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と回答した人の割合	85.9%	95%
「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」と回答した人の割合	30.6%	50%

施策の柱３　「学び」と「活動」によるつながりづくり

指標			現状値	目標
			令和元年度	令和７年度
「学習活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合			45.4%	60％
「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒	小５	実　績	89.7%	前年度以上
	中２	実　績	87.3%	
「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合	小６	実　績	94.4%	全国平均以上
		国(実績)	*95.2%*	
	中３	実　績	94.5%	
		国(実績)	*94.3%*	
「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合	小６	実　績	71.9%	全国平均以上
		国(実績)	*68.0%*	
	中３	実　績	59.2%	
		国(実績)	*50.6%*	
「子育てに関する悩みや不安を感じる」と回答した保護者の割合	就学前児童		35.5%	現状値以下
	小学生		41.6%	
	中・高生		40.2%	
地域・子ども交流事業参加者数			55,370 人	前年度以上

Ⅱ　北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対するパブリックコメントの結果

１　募集期間　　令和２年１０月６日（火）～１１月９日（月）

２　提出状況

提出件数５１件

意見提出者（団体・個人）	意見提出方法			
	電子メール	郵送	FAX	持参
２６	１	４	２０	１

３　意見内訳

分類		件数
計画全般に関わるもの		５
第１章　計画策定にあたって		―
第２章　北九州市の生涯学習を取り巻く現状と課題		―
第３章　生涯学習のこれからの方向		３
第４章　施策に関する具体的な取り組み		３３
	施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり	（２１）
	施策の柱２　「学び」と「活動」による人づくり	（７）
	施策の柱３　「学び」と「活動」によるつながりづくり	（５）
その他		１０
計		５１

４　計画への反映状況

区分	件数
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む	３０
②　計画の追加・修正あり	１
③　計画の追加・修正なし（今後、参考するものを含む）	５
④　その他	１５
計	５１

Ⅲ　北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）の修正箇所について

修正１

【議員意見】

・これからはオンラインを活用し、（学びの）機会が広がるような取り組みをしてもらいたい。

・ＩＣＴの活用が進んでいく中で、計画ではそこが手薄に感じる。活動にＩＣＴの理念を盛り込んだほうが出遅れないかと思う。

【修正内容】

施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

（３）多様な「学び」の機会の提供

①「学び」のきっかけづくり

修正前	修正後
Ｐ５９ そのため、生涯学習関連施設に行かなくてもオンラインを活用するなど「学び」の機会 の提供や人とつながることができるような、学びを継続できる仕組みづくりを進めます。	Ｐ５９ そのため、生涯学習関連施設に行かなくても**参加できる**オンライン**による講座の実施をはじめ、ＩＣＴなどの新しい技術も最大限**活用する**ことで**「学び」の機会の提供や人とつながることができるよう、学びを継続できる仕組みづくりを進めます。

修正２

【議員意見】

・リカレント教育を項目に出して、誰もが学び直して、人生失敗してもやり直せる生涯学習社会を作ってほしい。
・個々の人生の選択肢を多様化するという意味で、再就職とかに学びが繋がるということをイメージ的に市民に伝えていってもらえたらと思う。

【修正内容】

施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

（３）多様な「学び」の機会の提供

②－３　成人期の生涯学習

修正前	修正後
Ｐ６１ 特に、近年、急速なグローバル化や情報通信技術の発展により、職業に必要な新たな 知識や技能等が高度化しており、社会人の学びの継続・学び直しも求められています。 そのため、様々なニーズに対応した学習機会を充実していくとともに、社会教育関係 団体、学校、NPO、ボランティア団体、企業などとの連携により学習機会の充実を図り ます。	Ｐ６１ 特に、近年、急速なグローバル化や情報通信技術の発展により、職業に必要な新たな知識や技術等が高度化しており、**学校を卒業し、社会人となった後も、大学等で更に学びを重ね、職業や再就職に必要な能力を身に付けるといった**社会人の学びの継続・学び直し**（リカレント教育）**も求められています。 そのため、**社会人の学びを推進し、**様々なニーズに対応した学習機会を充実していくとともに、社会教育関係団体、学校、ＮＰＯ、ボランティア団体、企業などとの連携により学習機会の充実を図ります。

修正３

【議員意見】

・取り組みの「②－５ 障害のある人・外国人住民等への生涯学習」について、②－１から４までは（「乳幼児期の生涯学習」、「成人期の生涯学習」など）単体で表現しているが、なぜここだけ、障害のある人と外国人住民を一緒にするのか、少し違和感を覚えた。二つに分けて表現する方がしっかり市が対応するという気持ちがより市民に伝わるのではないかと思う。

【修正内容】

施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

（３）多様な「学び」の機会の提供

②－５　障害のある人・外国人住民等への生涯学習

修正前	修正後
Ｐ６３ ≪②－５　障害のある人・外国人住民等への生涯学習≫	Ｐ６３ ≪②－５　**多様性（障害のある人・外国人住民等）に応じた生涯学習**≫

修正４

【議員意見】

・柱３の目標値が若干消極的な部分が多い、折角の目標なのでもう少し上を目指してはどうか。

・地域・子ども交流事業参加者数の目標値が「現状維持」になっており、折角の目標なので、もう少し高く設定してもいいのではと思う。

【修正内容】

施策の柱１　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

指標等

修正前

Ｐ５６

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
生涯学習関連施設の利用者数≪北九州市調査≫	14,033 千人	現状維持

修正後

Ｐ５６

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
生涯学習関連施設の利用者数≪北九州市調査≫	14,033 千人	前年度以上

施策の柱３　「学び」と「活動」によるつながりづくり

指標等

修正前

Ｐ７４

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
地域・子ども交流事業参加者数≪北九州市調査≫	55,370 人	現状維持

修正後

Ｐ７４

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和７年度
地域・子ども交流事業参加者数≪北九州市調査≫	55,370 人	前年度以上

修正５

【市民意見（№38)】

・コミュニティスクールに関して、素案の７９Ｐに記載しているが、全く理解できないので、わかりやすく書き直して欲しい。市型・国型の違い、現状の取組と今後をどうするか具体的に書いて欲しい。

【修正内容】

施策の柱３　「学び」と「活動」によるつながりづくり

（3)学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

②　家庭・地域・学校の連携促進

修正前	修正後
Ｐ７８ そのため、引き続き、様々なボランティアと連携し、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めます。	Ｐ７８ そのため、引き続き、様々なボランティアと連携し、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めます **また、地域の方々や保護者などの声を取り入れ、更なる連携・協働を図り「地域とともにある学校づくり」を進めるため、学校の運営方針や運営に必要な支援等を地域とともに考える「コミュニティ・スクール」の設置を推進します。**
Ｐ７９ ＜主な事業＞ ◯コミュニティ・スクール、地域学校協働事業 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた基盤として、地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール（北九州市型コミュニティ・スクールを含む)」と「地域学校協働活動」の一体的な推進を図ります。 ［ 教育委員会指導第一課 ］	Ｐ７９ ＜主な事業＞ ◯コミュニティ・スクール、地域学校協働**活動**事業 **「コミュニティ・スクール」設置の推進とともに、これまでの、地域が学校を支援する体制をベースに、地域と学校とが共通の目的・目標に向かって、協働して子どもたちの成長を支える仕組みを「地域学校協働活動」とし、一体的な推進を図ります。** ［ 教育委員会指導第一課 ］

修正６

【議員意見】

・学んで活動するということだけでなく、意識を高めるということで主権者教育、市民教育がある。なかなか学校教育では、そのような視点が入れられないため、それを補完する意味で生涯学習として主権者教育、市民教育に力を入れてもらいたいと思う。

【修正内容】

施策の柱３　「学び」と「活動」によるつながりづくり

（３）学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

修正前	修正後
Ｐ７９ 地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることが、地域の活性化につながっていきます。 また、子どもたちの豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長の糧につなげていくことが求められています。 そのため、地域住民、子育て支援団体、NPO、企業など、地域の多様な主体が参画し、地域全体で子どもたちの発達・育成を促す環境づくりに取り組みます。 特に、世代間交流や体験活動は、豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。 そのため、地域、子ども会などの青少年育成団体と連携し、世代間交流・異学年交流や生活体験、自然体験、社会体験など、体験活動の充実に取り組みます。	Ｐ７９ 地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることが、地域の活性化につながっていきます。 また、子どもたちの豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長の糧につなげていくことが求められています。 特に、世代間交流や体験活動**に**は、豊かな人間性や**主権者として**自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の基盤**をつくるとともに、身近な地域の課題を知り地域の構成員の一人として主体的に参画できる力を育むこと**が期待されています。 そのため、地域住民、子育て支援団体、NPO、企業など、地域の多様な主体が参画し、子ども会などの青少年育成団体と連携しながら、世代間交流・異学年交流や生活体験、自然体験、社会体験など、体験活動の充実**を図り、**地域全体で子どもたちの発達・育成を促す環境づくりに取り組みます。

Ⅳ　次期生涯学習推進計画策定経過及び今後のスケジュール

年度	月・日	社会教育委員会議	次期生涯学習推進計画検討会議	
			全体会	分科会
Ｒ１ (2019)	01.7.17(水)	第１回会議 ・協議テーマに関する意見のまとめ		
	8.26(月)			第１回分科会 ・各施策の成果と課題 など
	10 月	第２回会議 (10/25) ・各施策の課題と整理 ・体系図(案)など	第１回全体会(10/18) ・各施策の課題と整理 ・体系図(案)など	
	02.2.10(月)			第２回分科会 ・計画たたき台
Ｒ２ (2020)	02.4.17(金)		第２回全体会 【書面開催】 ・計画たたき台	
	5.19(火)	第１回会議【書面開催】 ・計画たたき台		
	7.2(月)		第３回全体会 ・パブコメ素案	
	8.3(月)	第２回会議 ・パブコメ素案		
	8.20(木)	教育委員会会議に次期計画素案を付議		
	10.5(月)	市議会常任委員会に次期計画素案を報告		
	10.6～11.9	パブリックコメント実施		
	11 月	パブリックコメント集計・分析		
	12.11(金)		第４回全体会 ・パブコメ結果について	
	12.25(金)	第３回会議 ・パブコメ結果について		
	03.3.24(水)	市議会常任委員会にパブリックコメントの結果を報告		
Ｒ３ (2021)	**4 月**	**教育委員会会議に次期計画(成案)を付議**		
	6 月	**市議会に次期計画(成案)を報告**		

Ⅴ 北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4 計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
① 計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
② 追加・修正あり
③ 追加・修正なし
④ その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
≪計画全般に関わるもの≫ （5件）				
1	過去の委員の方々の貴重な意見を踏襲し、生涯学習課の皆様の御努力により見事な計画案が作成されていることに感謝いたしました。 計画案が限りなく実行されることを祈念しております。	引き続き、次期計画に基づき本市の生涯学習の推進に努めていきます。	1	④
2	生涯学習に関する考察に対し読めていないのではないか、と不安に思います。	次期計画では、生涯学習の考察として本市の状況、市民意識、現計画の成果と課題を踏まえ、現計画の総括を記載しています。総括によって導き出された課題に対応する取り組みを「第４章　施策に関する具体的な取り組み」に記載しています。	2	①
3	「課題の解決」はとても分かりやすくかかれていましたが、それを実際にどのように持っていくかが重要なカギになると思われます。	現代的・社会的な課題は多様で複雑化しています。そのため、行政だけではなく自治会、まちづくり協議会等の地域団体、社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア団体、企業などの地域社会のさまざまな組織が連携し、それぞれの強みを活かしながら、課題解決に取り組んでいきます。 また、地域の課題解決には、地域において中心となるリーダーが必要となるため、地域のリーダーを育成していきます。	2	①
4	私自身は今、学生で学びの場があり、それをすることが本業であるため、ボランティアやまちの活動などに参加しやすいが、社会人で仕事をしている人たちは、休みが合わなかったり貴重な休みの人もいたりするため、なかなか仕事以外の事に手を出せないんだと思う。そのためいくら目標を立てたからといっても、それに費やす時間がない。計画目標を達成したいのなら会社や仕事場の休みとは別に、このための休みを条例でつくるくらいのことをする必要があるのではと思う。甘い考えだとは思いますが…	「生涯学習意識調査」結果では、「学習活動」をした割合が30歳代と40歳代は平均以下となっています。 本市では、働く人が仕事と家庭・地域における活動を両立できるよう、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現を目指し、企業への働きかけを行っています。 次期計画においても、いつでも、どこでも生涯学習ができる環境づくりを支援することで、成人期の生涯学習を推進していきます。	2	①
5	人生100年時代に向けて生涯学習社会を広めていくことはとても重要なことだと思いました。今でさえ超高齢社会となっている日本が、さらに高齢化が進むことで介護される側だけが増え続けてしまうことは、絶対的に避けなければいけないと思います。そういうことを含めた上でも生涯学習社会をより広め高齢者の方でも元気な方がたくさんいる社会の実現を目指していくべきだと思いました。	「超高齢社会」において、高齢者が健康で、生きがいをもち、その豊富な経験や知識・技能を活かし、生涯にわたって充実した生活を送ることができるような取り組みが求められます。そのため、「学び」と「活動」を通して、仲間づくりや多世代交流を行い、喜びや誇りを感じながら健康づくりや生きがいづくりにつながる多様な学習機会を提供していきます。	2	①

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
≪第3章　生涯学習のこれからの方向≫　（3件）				
6	人生100年時代などと大上段に構える必要は全くない。 個人の学びの目的は自分自身を高めることに帰する。 学びに対しては様々な学習機会の提供と参加のきっかけづくりが重要。 （P39（1）それが、P43の自己実現に繋がっていく） 人材の発掘とか育成とかは後からついてくる。	次期計画を策定するにあたり、参考にした国の「第3期教育振興基本計画」において、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」が、目標の一つとして掲げられていることから、次期計画でも、同様に基本方針に位置付けています。 次期計画においても、市民一人一人が、心豊かな人生を送れるよう市民のニーズに沿った学習機会の提供と参加のきっかけづくりに努めていきます。 また、学びが個人の生きがいや知識・技術の向上だけでなく、地域づくりなど様々な活動に繋がるように、人材の発掘・育成の仕組みづくりを進めていきます。	2	①
7	世界の目標であるSDGsを関連する主な目標とすることで目指すところが明確になっていて良いと思った。	引き続き、次期計画に基づき、生涯学習の取り組みを推進することでSDGsの目標達成に努めていきます。	1	④
8	たくさんのSDGs目標と関連している点は非常に良いと思う。		1	④
≪第4章　施策の柱1　誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり≫　（21件）				
9	市民の一人として希望するのは以下の通りです。（1）即生活に利用できるもの（2）年数に応じて生きてくるもの なお、市民は、格差社会により、（1）の講座を望む傾向が強くなっているとも感じます。また、新型コロナの影響もあり、オンデマンドの授業を希望する傾向もあると感じます。（対面授業を受けたいが、安全面で出来ない。withコロナ、という状況の中で、というわけです） 具体的にどういう講座を望むか、については以下の通りです。（1）生活のための園芸、農業に関連するもの。公園での安全に食べられる花壇など。（2）衛生に関するもの。掃除。洗濯。料理。（3）スマートフォン、タブレット講習。（学校教育に導入を始めているそうです）（4）簡易な道路補修（イギリスで行われています。雑草や穴を埋める。）（5）AED講習（心臓マッサージ）などの救命講習。	「（1）即生活に利用できるもの」については、次期計画においても、引き続き、生涯学習関連施設でスマートフォン講座や健康教室・体操など、様々なニーズに対応した学習機会の提供に努めていきます。 また、生涯学習施設に行かなくてもオンラインを活用するなど学びを継続できる仕組みづくりを進めていきます。 「（2）年数に応じて生きてくるもの」については、次期計画においても、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期のライフステージごとに応じた、ニーズや課題に応じた学習機会を提供していきます。 次期計画においても、ご指摘の講座内容を含め、市民の様々な市民の様々なニーズに対応した学習機会の提供に努めていきます。	2	①

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
10	ある一定数の市民は「学習」に対して意欲はあるが、学びはじめる「もう一歩」が足りない様に思えます。	「生涯学習意識調査結果」では、学習活動を行っていない理由として「仕事や家事等が忙しくて時間が取れない（59.4%）」が最も多く、2番目に多いのは、「学習活動を始めるきっかけがない（35.0%）」となっています。 そのため、次期計画においても、市民のニーズに沿った学びを様々な機会において提供し、生涯学習に参加できるきっかけづくりを支援していきます。	2	①
11	市民センターの講座を「生涯学習」としてとらえているかどうかが不透明に思えます。	「生涯学習意識調査」結果では、市民センター利用者、生涯学習センター利用者が生涯学習の「言葉も意味を知っている（75.3%）」との回答が最も多くなっています。 引き続き、次期計画においても、市民センター等での講座やイベント等、生涯学習事業のを実施を通して、市民に生涯学習の大切さを伝えていきます。	2	①
12	市立図書館の位置づけについて 社会教育法第9条1項において、「図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする」と明記されているが、図書館については、素案56Pモニタリング項目に、一行だけで記載されているものの、具体的に何も示されていないため、位置づけしていないのか？ 生涯学習課が教育委員会から離れたこと及び図書館への指定管理導入により、社会教育施設として認識していないと推測する。指定管理の館長は司書でも、正社員でもなく、モチベーションが感じられない実態からは、期待できない。例えば、穴生学舎でタブレット講座を実施しているが、八幡西図書館で高齢者対象にOPAC活用法・データベース利活用を中心として「図書館活用講座」という連携できないのか。実際、高齢者以外もIT弱者の市民は多い。OPAC操作ガイドは、福岡市では横に置いているが、本市で置かない理由を聴くと、「メーカー作成分が見当たらないので捜している」とのこと。これでは、社会教育施設としての役割が果たせない。この件に関し、生涯学習課の考え方を知りたい。	次期計画でも、図書館を生涯学習施設として位置づけており、市民に生涯学習の機会を提供する重要な施設だと考えています。 また、市立図書館は社会教育法の精神に基づき制定された図書館法に則り、市民の教育と文化の発展に寄与することを目的に運営しています。 OPAC（蔵書検索）操作ガイドについては本市でも令和2年10月から設置したところです。	2	③

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
13	素案56Pの「モニタリング項目」市立図書館における市民一人当たりの貸出冊数⇒市立図書館における（今まで利用のなかった）新規貸出利用者に変更を希望します。	ご提案の項目については、データの抽出が困難であり、また従来からの統計資料と齟齬が生じることから変更の予定はありません。	3	③
14	まなびネットひまわりに,、市内の社会教育施設（博物館は県教委の教育便覧に記載のある登録博物館以外も対象・美術館・図書館）をリンクするよう希望します。	次期計画では、生涯学習に関する情報提供システム（まなびネットひまわり）を充実させることとしています。 具体的には、講座等の情報量を充実するとともに、新たに活動団体（NPO法人・ボランティア団体等）の情報を掲載することとしています。さらに、ご指摘の市内の社会教育施設を含め、学習情報の充実に努めていきます。	2	①
15	若者世代（10代、20代）には、あまり必要性が伝わってないと思うので、重要性を伝えた方がいいと思います。（チラシに掲載する際など）	ご意見のとおり、「生涯学習意識調査」結果では、生涯学習の認知度や参加度の回答が10代、20代の若い世代は全体平均以下となっています。 次期計画では、ホームページ・SNSなどのウェブ媒体を活用するなど、若い世代にも情報が届きやすくなるよう工夫していきます。 また、様々な媒体を通じて、生涯学習の重要性を伝え、生涯学習がより身近なものとして捉えてもらえるよう、工夫していきます。	2	①
16	私は21年間北九州市に住んでいます。しかし、このような行政の取り組みについて全く知りませんでした。市民に多く知ってもらうために、チラシのネーミングを簡単にしたり、目につくところにはったり、より多くのメディアで取り上げたりするなどの工夫が必要だと思いました。		2	①
17	行政が作るサイトは自分で探さないと出てきません。インスタグラムやYouTubeは関連したものが次々と出てきてついついみてしまいます。ついつい見てしまうような策略をお願いします。		2	①
18	<主な事業>は、とても良い取り組みだと思ったが、自分自身が知らないものばかりだった。学生や若者が、知れるような宣伝（Twitter・インスタグラム等）をしたら良いと考える。生涯学習情報システムの講座も興味深いものばかりだったが、やはり若者が知るきっかけが必要になってくると感じた。		2	①
19	生涯学習の推進計画が現在、市などで大きく取り扱われているのだということが理解することが出来ました。生涯学習というのを知っていても、実際に行う人は少ないと思うので、もっともっと呼びかけていくことが大切だと思います。		2	①

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
20	分かりやすく入手しやすい情報提供をする。	次期計画では、生涯学習に関する情報提供システムを充実させることとしています。 具体的には、学習情報量の充実を図るとともに、開催日や開催地、ジャンルから情報を簡単に検索できる等、市民がより利用しやすくなるように改修します。	2	①
21	生涯学習情報システム（まなびネットひわまり）のサイトを開いて見ましたが、講座に関して検索をかけないと見つけることができないので最初の画面に「子育て」「歴史」「防災」などカテゴリー分けしていくつか分けられていると参加したいものが見つかって若者の参加率も増えていくのではないかと思いました。		2	①
22	大人が生涯学習を簡単にできるよう、時間や曜日に配慮するために、個々に希望をとる必要があると思った。	生涯学習事業の実施にあたっては、時間や曜日など、学習者のニーズの把握に努めることで、学習活動に参加しやすい環境づくりに取り組んでいきます。	2	③
23	幼児期～高齢期までの生涯学習があり、すべての人がライフステージ応じた学びができると思う。	次期計画においても、市民一人一人が心豊かな人生を送れるよう、乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期といったライフステージに対応した学習機会を充実していきます。	2	①
24	現状、目標を数値化することで初めて見た人でも分かりやすいと感じた。 生涯学習を推進することで地域が豊かになる。そのために皆に、今現在の状況を知ってもらい理解してもらうことが重要である。なので、取り組みを分かりやすくしたほうが良いと感じた。	地域の様々な取り組みについては、市民センターで発行する市民センターだより等で住民に周知しています。次期計画では、印刷物等の紙媒体や、ホームページ・SNSなどのウェブ媒体も活用しながら、地域の取り組みを分かりやすく提供していきます。	2	①
25	コロナの影響による新しい生活様式の中での生涯学習も取り入れる必要があると感じた。	次期計画では、生涯学習関連施設に行かなくてもオンラインを活用するなど「学び」の機会の提供や人とつながることができるような、学びを継続できる仕組みづくりを進めていきます。	2	①
26	学習活動時間は、「とれない」というより「とっていない」だと思うので、便利なiPadを導入する。	次期計画では、生涯学習関連施設に行かなくてもICTを最大限活用するなどにより、「学び」の機会を提供していきます。	2	①

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
27	学習や場所の確保をする。	次期計画においても、多様なニーズに対応した学習機会の提供に努めるとともに、生涯学習関連施設が市民にとって利用しやすい施設になるよう充実を図っていきます。	2	①
28	「学びと活動の環」推進プランは、体系的にも内容的にもとても理解しやすくまとめられていると感じました。 この施策の中で、私が最も充実していただきたいと思ったのは、〝(2)気軽に相談できる体制づくり〟です。何を学び、その学んだことを活動（社会貢献）へつなげるには、その前提に（前段のステップで）一人ひとりが、「どんな人生をすごしたか」すなわち、そのひとの「ありたい姿」を明確に描くことが重要だと思います。どの様な「学び」の相談体制をつくるのかが、本プランの鍵のひとつではないかと思います。	次期計画においても、生涯学習関連施設などでの相談事業を実施していくとともに、市民の多様なニーズに対し、適切なアドバイスができる人材を育成し、相談窓口などに配置するなど、市民が気軽に相談できる体制づくりに取り組んでいきます。	2	①
29	私が受講したことのある市民センター講座について書かせていただきます。 地域の中にある市民センターは学びの場としてだれでも気軽に行ける場所であると思います。戸畑区の各市民センターで行われている市民センター講座は、いろんな内容の講座があり、自分の興味のあるもの、やってみたかったものなどを受講することができるので学びのきっかけづくりになりとても良いと思います。 講座を受講することがきっかけで、やってみたかったことが趣味となり、好きなことをみつけると生きがいにもつなっがていくと思います。 市民センターの講座は平日の午前中の講座が多いので働いている方など、時間的にむずかしい場合があると思います。午後からの講座、夜からの講座、土曜日の講座などがあると参加しやすくなるのではないかと思います。 市民センター講座へ行くと、地域の方の知り合いがふえますが、年代がちがうと、なかなか1回の講座くらいでは、仲間づくりはむつかしいように思います。 今後もぜひ参加したいと思えるような内容の市民センター講座を計画していただけることを期待しています。	市民センターで実施している生涯学習市民講座では、学習プログラムを企画する際に、学習者の属性（年齢・性別・職業等）の違いやこれまでの学習経験の違いに応じて、学習内容や開催する日や時間等を変えて実施しています。また、講座が仲間づくりにもつながるよう基本的には、1講座3回以上のシリーズとして考えております。 今後とも、市民が参加してみたいと思えるような魅力的な講座づくりに努めていきます。	2	③

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
≪第4章　施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり≫ （7件）				
30	ボランティアを通してイベントを開催してほしい。	「生涯学習意識調査」の結果では、「地域のために役立ちたい」と思っている人は約7割います。次期計画では、様々な地域課題の解決に取り組むための学習機会を提供し、地域ボランティアの発掘・育成に取り組んでいきます。 また、ボランティアが市民センターで実施している文化祭や夏祭り等のイベントにおいて、様々な人たちと知り合ったり、協力しあうことを通して、人と人とのつながりが広がるよう支援していきます。	2	①
31	地域コミュニティの希薄化を防ぐために、地域全体の人が参加する活動やボランティアなどの活動を増やす。		2	①
32	ボランティア活動などをしたいと考えてる人は多いが、現状参加している人数は半分にも満たしていないため参加意欲が湧く取り組みをしていく必要がある。		2	①
33	地域の行事を増やす。		2	①
34	地域ボランティアをしたい人はたくさんいるが、実際に行っている人はまだまだ少ないので、地域ボランティア・リーダーの発掘・育成に力をそそぐと良いと思う。	次期計画においても、地域づくりを担うボランティアや地域活性化の中心となるリーダーの発掘・育成に取り組んでいきます。	2	①
35	地域学習や活動を通して経験がある人材を見つけ出す。	次期計画では、「学び」と「活動」の機会を充実させることにより、多様な課題を解決するための能力や技術が育まれた人材の発掘・育成に取り組んでいきます。	2	①
36	スポーツの活用も…北九州のスポーツコミッションをつくる。そこでスポーツボランティアを育成し、リーダー養成も行う。 PTAの活用も。	スポーツコミッションについては、平成26年に商工会議所等とともにスポーツ大会の誘致組織を設立し、オリンピックの事前キャンプや大規模国際大会の誘致に取り組んでいます。 また、スポーツボランティア研修会、リーダー養成研修会を開催しています。今後も開催を継続し、スポーツボランティア、スポーツボランティアリーダーの養成に努めていきます。 さらに、家庭・地域・学校が連携・協力し、例えば、家庭教育支援やコミュニティ・スクール、地域学校協働事業、地域の文化祭等様々な事業やイベントを実施しています。今後とも家庭・地域・学校が連携・協力し、より良い地域づくりに取り組んでいきます。	2	④

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
≪第4章　施策の柱3　「学び」と「活動」によるつながりづくり≫　（5件）				
37	シビックプライドの醸成について、行政のカタカナ用語使用は、市民目線ではなく、強調すると悪乗りのような違和感があり、しらけた気分になる。小池知事の評判が悪いのを参考に再考して欲しい。私はかつて同和行政がからむ焚書事件があったこと等の数々の不祥事事件のため、誇り、愛着はありません。	次期計画を策定するにあたり、参考にした国の「第3期教育振興基本計画」において、「地域への愛着や誇りを子どもたちに育むこと」が重要とされています。また、市が策定した「北九州市教育大綱」にも、「SDGsの視点を踏まえたシビックプライドの醸成」が掲げられていることを踏まえ、次期計画でも、本市への愛着・誇り（シビックプライド）の醸成を盛り込むこととしています。	3	③
38	コミュニティスクールに関して、素案の79Pに記載しているが、全く理解できないので、わかりやすく書き直して欲しい。⇒市型・国型の違い、現状の取組と今後をどうするか具体的に書いて欲しい。	ご意見を受けて、下記のとおり修正します。（下線が追加及び修正部分） P78本文 そのため、引き続き、様々なボランティアと連携し、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めます また、地域の方々や保護者などの声を取り入れ、更なる連携・協働を図り「地域とともにある学校づくり」を進めるため、学校の運営方針や運営に必要な支援等を地域とともに考える「コミュニティ・スクール」の設置を推進します。 P79主な事業 ◯コミュニティ・スクール、地域学校協働活動事業 「コミュニティ・スクール」設置の推進とともに、これまでの、地域が学校を支援する体制をベースに、地域と学校とが共通の目的・目標に向かって、協働して子どもたちの成長を支える仕組みを「地域学校協働活動」とし、一体的な推進を図ります。	3	②
39	個人による地域や人とのつながりが強まれば、孤立する人も少なくなり仲間づくりも地域の愛着などが生まれシビックプライドの醸成もできてくる。	次期計画では、「学び」と「活動」の機会の提供を通じた、つながりから生まれるシビックプライドの醸成を図っていきます。	2	①
40	スポーツを通して縦・横の人のつながりができ、それもシビックプライドの育成につながると思うので、シビックプライドの醸成の所に生涯スポーツを取り入れているのはいいと思った。	次期計画では、スポーツの振興によるシビックプライドの醸成に努めていきます。	1	④

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
41	現代的、社会的な課題の解決に向けた学習機会について、施策の視点「つながりづくり」「地域づくり」に重点を置いた意見です。 高齢の方が、これまで得てきた〝生活の知恵〟を若者、子育て世代へ伝える。 「学び」の機会があると多世代のつながりの形成へつながり、それが地域づくり延いては、ネットワークづくり、天災時の共助が可能なつながりができるのではないかと考えます。	次期計画では、引き続き、高齢者が、その豊富な経験や知識・技能を活かし、仲間づくりや多世代交流を行える学習機会を提供していきます。 また、地域における、人と人とのつながりづくりを進めることで、地域コミュニティの維持・活性化につなげていきます。	2	①
≪その他≫　（10件）				
42	コロナの中での活動とても考えさせられます。そこで、休耕田や畑を使用して、みんなで農業をしてはどうでしょう。野菜や田うえなど外での活動は、人数をわりと多くで出来、収穫感謝祭などのたのしみもできるのではと思います。	ご意見として承ります。	4	④
43	チラシに載っている言葉が堅苦しい気がします。キャッチフレーズのようなものを載せると若い世代の方々も見る気がします。	ご意見として承ります。	4	④
44	防犯対策として大学生が、小・中高生の登下校の見守りをすると、大学生にとっても1限の出席率が上昇し、防犯対策になると思います。	ご意見として承ります。	4	④
45	私は、地域の高齢者と関わりがもてる環境が欲しい。人生談や相談・昔の話など、できるような時間があったら、地域のことをもっと好きになれると思う。	本市では、概ね小学校区毎に地域における住民の交流及び自主的な活動の拠点として市民センターを設置しています。 今後とも、地域において子どもや若者、高齢者といった多世代が交流できる機会を提供していきます。	4	④
46	時代に合わせて情報化、グローバル化の進展に合わせてさまざまな効果を得られると感じた。	生涯学習の分野においても、情報化やグローバル化の進展に対応した学習機会の提供に取り組んでいきます。	4	④
47	「生涯学習」についての内容を市町村などで定期的に話し合う機会を設ける時間を増やすなどが良いと感じた。	社会教育、生涯学習関連分野に関する諸計画の立案や調査研究を行う市の「社会教育委員会議」において、定期的に、計画に掲げる事業等の進捗を把握するとともに、特定のテーマを設定し、議論を深めるなど、計画を着実に推進していきます。	4	④
48	具体的な戦略を！！生涯学習コミッション的な組織をつくり、タスクフォースのような集団が、ターゲット地域の課題に取り組んでいく。		4	④
49	各取り組みについて、現場の情報を一元的に集約していく機能をつくってはどうか。その上で取り組みを積み重ねていく。	各部局で実施している生涯学習事業の取り組みをそれぞれが共有し、より良い取り組みへとつなげていきます。	4	④

北九州市生涯学習推進計画≪“学びと活動の環”推進プラン≫（素案）に対する意見と市の考え方

【意見の内容】
1　計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
2　計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
3　計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
4　計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】
①　計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む
②　追加・修正あり
③　追加・修正なし
④　その他

NO	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
50	北九州の歴史について市役所の方や高齢者の方からお話を聞き、新聞を作る。	ご意見として承ります。	4	④
51	市民センターにおける生涯学習活動は、地域・人づくりの要であり、最も重要な位置付けをするべきだと思うのですが、年々予算は減らされて、これでは年間を通して生涯学習の“推進”なんて無理ではないですか？もちろんお金だけではありませんが、もし、予算を削るなら、市民センターでも受講料を集めてよい、それを講師料にあててもよい。というように改正にしていただけるといいと思います。実際、市民センター以外の場所で多くの有志がそのような活動（講座）をされてます。でも、やはり公的な施設（地域の市民センター）で予算を確保して質の高い講座をすることで市民の皆さんの意識を高め、学びが活動につながっていくのだと思います。これ以上予算を減らさないで下さい。	市民センターにおける生涯学習事業は、地域づくり・人づくり・つながりづくりに大きな役割を果たしていると考えています。市民センターでは、限られた予算の中で創意工夫しながら事業を展開していただいています。 引き続き、必要な予算の確保に努めるとともに、これからの生涯学習事業の在り方や取り組みについて、検討していきます。	4	④